

きもに関するキーワード探索研究

熱田道子* 知野恵子**
寺田恭子** 渡邊芳道***

The Reserch of Kimono's Keywords

Michiko ATUTA, Keiko CHINO
Kyouko TERADA, Yoshimichi WATANABE

1.はじめに

きものは日本の衣服文化の集大成であるが、洋装化した生活様式の変化に対応できず、依然として所有財としての価値付けが先行している。また、きものへの愛着があっても高価であり、一人では着られない不便さなどから、日常生活において次第に脇役に転じ、非日常的な衣服になっている。

しかし、一方では日本文化の伝統を再発見するヤングを中心に着易いゆかたが夏のファッションとして復活している。こうした時代の変化とともにきものに対する意識も変革しているのではないかと考え、今後のきもの方向性を研究する手がかりとして、過去13年間のきもの情報を振り返り、その実情を調査することにした。

つまり、83年春から95年冬までの13年間、52シーズンにおけるきもの専門誌「美しいキモノ」の編集テーマの時系列経過を分析し、きもの現状を調べることにした。

今回は、上記専門誌の目次に用いられた編集テーマの中から、(1)きもの地、(2)きもの種類、(3)きもの用途、(4)オケージョン等に関するキーワードについてその出現頻度を調査の対象にして時系列に分析を試み、現状把握と今後の方向に関する研究テーマを探索することにした。

2.研究方法

(1)分析資料

きもの専門誌「美しいキモノ」

出版社 婦人画報社

(2)分析期間

83年春号から95年冬号まで 計52冊

*服飾美術学科 第3被服構成研究室 ***服飾美術学科 ファッションビジネス研究室

**服飾美術科 第3被服構成研究室

(3)分析項目

- 1) きもの地
- 2) きものの種類
- 3) きものの用途
- 4) オケージョン

3.分析結果

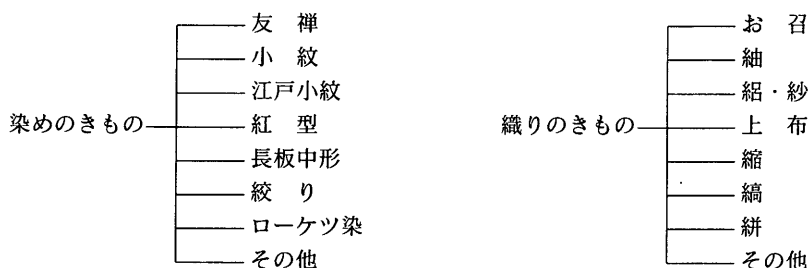
(1)きもの地

1) きもの地の種類

きもの地は日本の染織の歴史の一つである。日本の地方に点在する伝統産業として独自の染織技術を現在でも温存している。

きもの地は、染めのきものと織りのきものに二分される。染めのきものは、白地の織物

表1 染めのきものと織りのきもの



に染織する技法によって種類が区分される。また織りのきものは、糸染めして無地や柄に織上げた素材によって種類が区分されることが一般的である。(表1)

2) きもの地の分類

83年から95年までの13年間のきもの地の出現頻度を調べるために、染めのきものと織りのきものに分類した。

○染めのきもの (表2)

染めのきものでは、友禪、小紋、更紗、ゆかた、絞りなど27のキーワードを抽出することができた。出現頻度の高いキーワードは、小紋、ゆかた、友禪の順である。

・小紋は12年間高い頻度で出現している。小紋はその種類が様々であり、着こなし方しだいでいろいろな表情を演出することができ、コーディネートが楽しめるきもの地である。特に江戸小紋は江戸時代に武家の正装である袴として用いられ発展した。日本生まれの日本育ちの染色である。柄ゆきによって広範囲に着用することができ非常に便利なきもの地であるため、年

間を通じて定着している。

・夏衣であるゆかたが83年に登場し、95年までの13年間常に出現している。特に85年、

表2 染めのきもの

(N)

項目	年代	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
小紋 (江戸小紋・付け下げ小紋含む)		6	5	6	5	5	6	8	6	4	16	7	15	13
友 禪		3	4	1	1			3			1			
加賀友禪		6				1		1		1		2	1	
京友禪					8	1		1				1		
型 染				1					1	8		1		
紅 型				2		1	1							
更 紗 (和更紗・インド更紗 ジャワ更紗・フランス更紗含む)		1								1				12
長板中形						1								
ゆかた		1	1	6	3	2	8	3	4	6	9	3	6	4
ローケツ染		1								1				
絞 り (有松絞り・鳴海絞り・総絞り 京鹿の子絞り・辻が花含む)		3		1		2	5	2	3	1				
南部古代染			1											
茶屋染									2					
草木染		1											4	
色無地			2		1			1	1			3		
虹 染				1										

88年、91年、92年、94年に頻度が高いのが特徴である。ゆかたは着装が簡単で気軽に楽しめるため、ここ数年若い人の間で大人気となり、花火大会や縁日にはきれいなゆかた姿の人でいっぱいになり、夏のファッションアイテムとして定着した。

・友禪、加賀友禪、京友禪は10年間出現している。83年、86年、89年と高い頻度である。友禪では繊細で華麗な加賀友禪と優雅な京友禪が著名である。元禄時代の画工、宮崎友禪齋がその染色法を工夫完成した技法で、その名から「友禪」と呼ぶようになった。共に無形文化財に指定されている。どんな模様も色彩も意のままに表現できるため、意匠構成の広い技法である。留袖、振袖、訪問着、付け下げ、小紋などフォーマルからおしゃれ着まで広範囲に用いられる技法である。80年代に出現頻度が高い。

○織りのきもの (表3)

織りのきものでは、紬、上布、紗合わせ、緋、縮など35のキーワードを抽出することができた。出現頻度が高いのは、紬、結城紬、大島紬の順である。

・紬、結城紬、大島紬が83年から95年の13年間常に高い頻度で出現しているのが特徴である。紬の出現頻度が高いのは、独特の風合い、色、緋を織り出す伝統技があり、長い歴史のある織物の最高峰であると思われる。その中でも特に結城紬、大島紬においては、どんなに高価であっても礼装としては用いることができない。例えばおしゃれ着、旅行、ショッピング、観

表3 織りのきもの

(N)

項目	年代	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
紬		10	9	7	7	9	10	11	5	7	7	2	6	4
結城紬		4	4	4	3	4	3	4	3	3	3	4	5	11
大島紬		5	7	4	1	2	3	7	4	3	3	4	5	6
黄八丈											2			
生 紬		1	1	1	1		1	1	1	1	1			
紗 紬								1						
紹 紬									1					
本塩沢									1		1			
夏塩沢											1			
お 召			1	1										
上 布 (越後・宮古・八重山 能登・琉球壁・琉球)		1	2	1	1		1	7	1	4	5	1		
芭蕉布					1									
紗		1												
紗合わせ		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
緋 (米沢・薩摩・久留米・出雲・琉球含む)		3	1	2	3	1	7	2	1	9		1	1	
琉球の花織				1										
縞・格子						2			1					
縮 (小千谷・明石含む)		1		4			1	1			3	5	5	3
阿波しじら							1	1						
紅梅織 (絹・綿)		1						1			2			
銘仙 (秩父)		1												

劇、お稽古、家庭でのくつろぎ着として広範囲に着用することができる。紬の中でも、結城紬や大島紬は別格で一生に一枚は欲しいと思う女性のあこがれに支えられている。また産地や問屋の販売促進のためや、編集目的のためにとり上げられているとも思われる。

・ 緋類は11年間出現しているが、88年、91年に高い頻度を示している。

・ 夏のきもの地としての生紬は夏中着られるざっくりした風合いのきもの地である。少数であるが9年間出現している。上布は10年間出現しており、89年、92年に頻度が高い。紗合わせは主に盛夏になる前のわずかな期間に着るぜいたくなきものである。少数ではあるが13年間継続して出現している。縮は80年代に4回出現しているが、90年代に入り92年、93年、94年、95年と割合に高い頻度で急激に出現しているのが特徴である。その他の夏のきもの地としては、芭蕉布、夏塩沢、阿波しじら、紅梅織、紗紬、紹紬など出現している。夏のきもの地には、他の季節に比べて実に様々な素材が使われていることがわかる。

(2) きもの種類

私たちの祖先によって育まれてきた伝統ある日本のきものは、約束ごとがあり、しきたりによって支配されている。その一つが格であり、きもの種類は格付けによるもの、模様付けによるもの、きもの地(染め、織り)によるものなどに分類できる。格付けは礼装着から普段着

表4 きものの用途と種類

用途	目的・場所	きものの種類
礼装着	結婚式や公的な儀式など 格式を重んじる時	花嫁衣装 本振袖 (ミス、染め抜き5つ紋付き黒縮緬の絵羽総模様) 黒留袖 (ミセス、染め抜き5つ紋付き、縮緬地の裾模様) 色留袖 (染め抜き5つ紋付き) 喪服 (染め抜き5つ紋付き黒縮緬または黒羽二重)
略礼装着	礼装に次ぐきもので色・模様とも 少しくだけ、華やかさがあり、結 婚式や披露宴や卒業式、入学式、 初釜などのとき	色留袖 (紋付き) 振袖 中振袖 訪問着 色無地 (紋付き) 江戸小紋 (紋付き)
外出着 おしゃれ着	社交用として格を持たせて装うも のと、外出用として個性に合わせ て趣味的に装うものがある。 TPOに合わせてパーティおしゃ れ着、お茶会、街着など	色無地 江戸小紋 付け下げ 付け下げ小紋 小紋 紬類 お召
普段着	ちょっとした外出、ショッピング、 お稽古、家庭でのくつろぎのとき	紬類 絁類 ウール ゆかた

表5 きものの種類

(N)

種類	年代														
	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95		
打掛		3	1												
黒留袖	1				1	3	2	2	1	1		1	2		
留袖	2	1	2	2	4	3	8	1	4	4	2		1		
喪服	1									1					
色留袖			1			2	3	2	1	1	1	1	1		
振袖	2	6	10	7	8	10	12	8	11	9	7	6	10		
訪問着	6	11	7	10	9	14	10	18	21	14	12	15	13		
色無地		2		1			1	1			3				
江戸小紋	1						3	1				6	1		
付け下げ	5	4	5	8	4	5	3	8	5	2	4	5	4		
付け下げ小紋			1												
小紋	5	5	5	5	5	6	5	5	4	16	7	9	12		
お召		1	1												
紬	19	26	15	14	20	25	26	11	15	19	13	14	20		
絁	3	1	2	3	1	7	2	1	9		1	1			
銘仙	1														
ウール	2	1	1			2	1			1		3			
ゆかた	1	1	6	3	2	8	3	4	6	9	3	6	4		

に分けられ、模様付けは絵羽模様、江戸褙模様、付け下げ模様などきもの格にあった模様付けがされている。染めのきもの、織りのきものにもそれぞれ格があり、これらの要素を組み合わせることにより格付けがなされ、使い分けて用いられている。一般的には表4のような種類と用途に分類できる。これを基準にし、83年から95年までの13年間のきもの種類に関する高いキーワードを18抽出することができた。(表5)

- ・礼装着、略礼装着は、留袖類(黒留袖、留袖、色留袖)、振袖、訪問着が多い。
- ・外出着、おしゃれ着、普段着は、付け下げ、小紋、紬が主流になっている。
- ・紬の出現頻度が13年間非常に高く、普段着としてではなく社交着、おしゃれ着、街着など幅広く用いられている。
- ・ゆかたが13年間連続で取り上げられている。現代の傾向としていえることは、くつろぎ着だったゆかたが若者の夏のニューファッションとして格付けが上昇されつつある。
- ・お召、銘仙はここ10年間まったくなくなっている。

以上のことから、礼装着としての本振袖が一般的ではなく、略礼装着の振袖、中振袖がこれに変わり礼装着の座に上がってきている。今日では、黒留袖だけが唯一の礼装着と言っても過言ではないと思われる。訪問着と付け下げも格の区別がほとんどなく、礼装着から普段着まで各自のTPOに合わせて装い方も自由に、またそれぞれの格の区別もルーズになってきている。

表6 きもの用途別分類

用途		年代	(N)												
			83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
礼 装 着	礼 装 着		2	3	5	4	4	5	3	8	6	4	4	3	3
	第 一 礼 装			1	2		1								
	フ ォ ー マ ル								3		1				4
	正 装 服		1				1		1						2
社 交 着	祝 い 着			1					1	1		1			
	ニ ュ ー フ ォ ー マ ル			1											
	セ ミ フ ォ ー マ ル														2
	パ ー テ ィ 着		5	4	4	3	4	5	4	6	2	4	7	5	1
	晴 着			1		1		2	1	1			1	1	1
お しゃ れ 着	社 交 着				1	1	1		3	2			1		
	新 社 交 着						1				1				
	お よ ば れ 着							1		1					
お しゃ れ 着	お しゃ れ 着		2	5	3	4	3	1	6	4	5	2	1	2	3
	お しゃ れ 着						1	1					1	1	1
	外 出 着		1	2	1	3	2	1	2	2		1	1	1	
普 段 着	街 着					1									
	お 稽 古 着											1			
	遊 び 着											1			
普 段 着	普 段 着										1		1		1
	普 段 着														

(3) きもの用途

きもの用途別に分類する上でも、まず考えられるのがきもの格付けである。洋装においてフォーマルドレス、セミフォーマルドレスがあるように、きものにも礼装着、略礼装着がある。きものは洋装と異なり形は一定であるが、きもの地や模様付け、紋の有無によって格付けがなされ、場に相応しい着こなしが求められる。

表6は用途別における格の高い順に表わしたものである。これらを大きく分類すると、礼装着、社交着、おしゃれ着、普段着に分けられる。

1) 礼装着

礼装着は春、秋に集中している。この時期は、婚礼のシーズンでもあることから、結婚式や披露宴への出席を目的とする礼装着であることが伺える。

礼装着の中に、第一礼装といってミスでは留袖、ミスでは振袖といった最も格の高いきものがある。また正装、祝い着はここでは子供の七五三のきものをとり上げている。

出現頻度はごくわずかであるが、喪服も礼装着の大切なきものである。

2) 社交着

社交着を代表するものにパーティ着があげられる。一口にパーティ着と言っても、叙勲受賞の祝賀パーティから大学の卒業パーティ、友人の誕生パーティなど非常に用途の幅が広い。

表6にニューフォーマル、新社交着というキーワードがある。最近の傾向としてパーティ会場に大きなホテルを利用することが多くなった。広い会場での遠くからみた立ち姿や、側面からみるきもの姿の美しさを考慮された模様付けや、モダンで華やかな色使いをしたきものがよく目につく。このようなきものは、ニューフォーマル、セミフォーマル、新社交着、またニューきものなどと呼ばれ、ここ10年ほどの傾向である。従来のかきものでは、非常に地味な色合いとされている年配向きの色を若い人の感覚で現代風に着こなし、昔ながらの約束事に縛られず、きものを気軽に洋服感覚で楽しむのも最近の傾向である。

晴着は冬によく登場する。お正月特集や成人式用のきものとして晴着をとり上げている。

3) おしゃれ着

おしゃれ着もパーティ着につぐ高い出現率である。気軽な社交着から趣味のきもの、外出着、街着まで用途が広い。どういうきものをおしゃれ着と言っているのか、非常に曖昧な言葉である。この表にはないがおしゃれ着に付随した言葉として、しゃれ味、しゃれ道楽、しゃれ衣などがあげられる。これらは地味な、粋な、渋味のあるきものをさしており、おしゃれ着とは華やかなきものからまったく反対のきものをも含まれる。

4) 普段着

普段着はごくわずかで、お稽古着などがあげられる。83年から90年までまったく出現していないが、ここ5年ほど少し姿を現している。現代の生活から離れつつあったきものが、少し見直されてきた兆しが伺える。

表7 きものと年中行事

季	年中行事	年 代	(N)												
			83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
春	卒業式		1	1		1	1	1	2	2	2	2	1	2	3
	謝恩会		1			1		2	1	1	1	1	1	2	
	入園入学		1	1		1	1	1	1	1	2	1	1	1	
	歌会		1	1		1		1							
	節句				1									2	
夏	13詣り		1			2	1	1		2			2	1	
	夕涼み					1		1							
秋	夏休み											1			
	七五三		1	1	3	1	2		2	4	1	4	1	1	2
冬	正月		3	2	3	2	2	2	3	1	2	1	3	2	1
	初春/他		1	3	5	2	1	3	2	2	3	1	1	2	1
	成人式		1		1			2	3	1	2	1		2	3
	お宮参り				1										
	クリスマス														1

(4) オケージョン

1) きものと年中行事

きものの着装は、日本の伝統的な年中行事に関連しているかどうかを調べるために、行事的な14のキーワードについて調べたのが表7である。

・春はきものを着装する行事が多く、着装場面は卒業式、謝恩会、入園・入学が3大テーマになっている。卒業式は89年からテーマに取り上げる割合が高くなった。他には13詣り、歌会、お雛様の節句がある。

・夏は夏休み、夕涼みが普段着の着装場面になるが、具体的な場の提案よりも「ゆかた」そのものが着装テーマに上がっているので着装場面の頻度は低い。

・秋は七五三の行事と一致する。

・冬の着装場面には、正月・初春（他には新春・迎春・新玉の春など）と成人式の2大行事になっている。

きものの着装は伝統的な行事である春の卒業式、謝恩会、入園・入学、秋の七五三、冬の正月、成人式とに関連し、ますます儀式的な行事の正装着へと進展している。

2) きものとTPO

きものの着装場面に関する19のキーワードを(3)用途別分析結果による礼装着、社交着、おしゃれ着、普段着に分類し13年間の出現頻度を調べ、表8の「きものとTPO」を作成した。

13年間できものを着装するオケージョンにおいて出現頻度の高いキーワードは、パーティ、お茶席、婚礼、街角の順である。特にパーティに着装する社交着としての用途が多い。

○礼装着のオケージョンとして

・フォーマルという用語は84年に登場し、その後時々登場するが場の設定がハッキリしていない。

表8 きものとTPO

(N)

用途	TPO	年代	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	
礼 装 着	フォーマル 婚 礼			1					1	1	1					
						6	2	4	2	4	4	4	3	2	2	
社 交 着	パーティ 叙 勲 の 日 園 遊 会 お 茶 席 銀 婚 式 見 合 い		6	5	5	5	7	6	5	8	7	4	7	5	4	
												1				
								3		11	10	4	4	6	7	9
									1			1				
お しゃ れ 着	街 角 散 策 散 歩 ティータイム 画 廊 劇 場 ホール 買 い 物 旅 軽 井 沢		4	1	2	1	1	4					2			
			1					1		1					1	
			1						1							
															2	
			1	1												
					3									2		1
普 段 着	下 町 休 日 お 稽 古									1						
													1			1

・婚礼の場でのきものが本格的に取り上げられたのは86年からである。以後毎年継続して編集テーマに登場している。

○社交着のオケージョンとして

・きものをパーティという場で着装することは、13年間毎年継続して登場している。パーティできものを着ることは既に定着し、日本の民族衣装が社交着としての役割を果たすという認識は一般化しているといえる。

・お茶席の場できものを着装することが編集テーマとして本格的に取り上げられるようになったのは89年からであり、以後毎年登場している。

・その他に、叙勲の日、園遊会、銀婚式、見合い等のキーワードが88年から95年まできものを着装する場として単発的に出現している。

○おしゃれ着・外出着のオケージョンとして

・画廊、劇場ホール、買い物、散策散歩、ティータイム、旅、軽井沢等の着装場面が僅かにおしゃれ着・外出着として登場している。特に街角というテーマは83年から88年まで継続して取り上げられていたが90年代には後退し、お茶席というテーマに変化した。

この傾向を用途的に考えると、おしゃれ着から社交着に編集テーマの重点が移行したのではないかと考えられる。

○普段着のオケージョンとして

・下町、休日、お稽古等のキーワードは90年から92年にかけて僅かではあるが出現し、普段着の着装場面を提案している。

4.要約

(1) きもの地

・きもの地は染めのきものと織りのきものに二大別される。

・染めのきものでは小紋、ゆかた、友禅の出現頻度が高い。小紋や友禅はフォーマルからおしゃれ着まで、広範囲に着用できるきもの地で、その染色技法は応用範囲が広いことから定着している。

・織りのきもの主流は紬類がしめている。紬は長い伝統に育まれた技法を現代に伝えているもので、着れば着るほど味わいが生まれ、「三代着て風合いが出る」といわれるほど長持ちするきものである。また普段着という観念の枠を広げて社交着にも用いられる訪問着まで制作されている。普段着から社交着まで着用範囲を広げている。

(2) きもの種類

きもの種類のキーワードは、留袖、振袖、訪問着、付け下げ、小紋、紬、ゆかたが主流になっている。ゆかた以外は、日常着、普段着としてのきものより何か特別な時、または行事の時に着るきものとしてのとらえ方が多く、きもの日常着ばなれが感じられる。反面、きもの伝統的なすばらしさ、美しさを見直し、大切な時、特別な時は何故かきものを装っていることが現代の傾向と思われる。

(3) きもの用途

13年間で最も多い用途は、礼装着、パーティ着である。ついでおしゃれ着、外出着と続く。外出着をおしゃれ着に加えると、礼装着、社交着、おしゃれ着がほぼ同じ出現率であり、これらがきもの3大用途であると考えられる。

(4) 年中行事とオケージョン

きもの着装のオケージョンは社交着としてはパーティ、お茶席、礼装着として婚礼が重点的に浮上してくる。また、80年代はおしゃれ着にウェイトが置かれていたが、90年になると社交着に用途の重点が移行した。

きものを着る場面のオケージョン設定が明確ではなく、きもの種類そのものを訴求しているといえる。普段着のゆかたの場合でも、夕涼み程度では場の設定が曖昧である。だから、13年間にきもの着装範囲がおしゃれ着、普段着から伝統的な礼装着、社交着に絞り込まれ、非日常的で儀礼的な衣服への方向がより顕著になってきている。

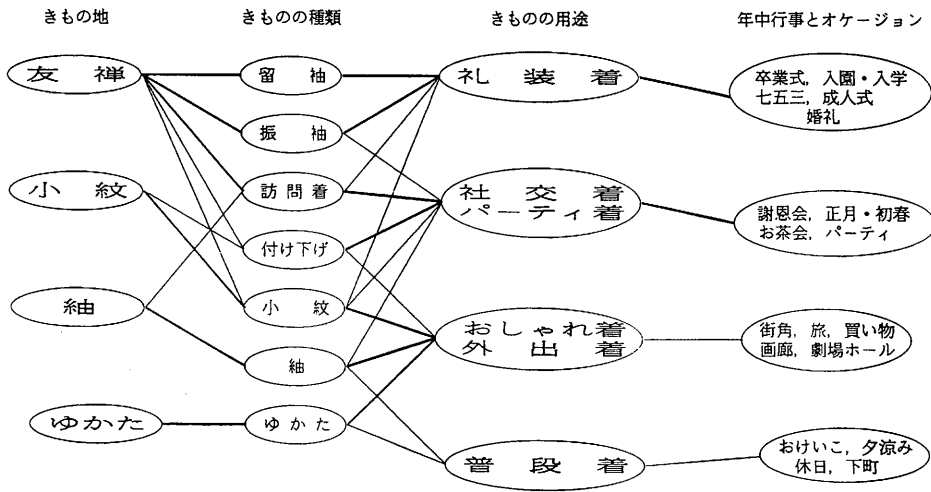


図1 きものに関するキーワードの関連図

5.まとめ

(1)～(4)までの分析項目のまとめを総合し、きものに関するキーワードの関連図(図1)を作成した。この結果、13年間の「美しいキモノ」における編集テーマを時系列的に分析することにより、きもの現状を次のように把握することができた。

- ・きもの地においては、友禪、小紋、紬、ゆかたの4つに集約された。
- ・きもの種類においては、留袖、振袖、訪問着、付け下げ、小紋、紬、ゆかたなど一通り情報として取り上げられている。
- ・きもの用途としては、礼装、社交着・パーティ着、おしゃれ着・外出着の3つの用途に集約できる。
- ・オケージョンにおいては、礼装として卒業式、入園・入学、七五三、成人式、婚礼など儀式的場面での着装と、社交着としては謝恩会、正月、お茶会、パーティなどコミュニケーションでの場面との2つに集中している。きものは以上のように日常着ではなく、非日常的な晴着へと進展しているといえる。

参考文献

- ・美しいキモノ、婦人画報社、(東京)1983春号～1995冬号
- ・藤本やす他：被服平面構成、衣生活研究会、(東京)1991 P270
- ・田中千代：新・田中千代服飾事典、同文書院、(東京)1991
- ・最新きもの用語辞典、文化出版局、(東京)1987
- ・和裁・初級編、財団法人 日本ファッション教育振興協会和裁専門委員会、(東京)1995

PP.2～9

- ・和裁・中級編、財団法人 日本ファッション教育振興協会和裁専門委員会、(東京) 1995

PP.15～26

- ・木村孝のきもの・しきたり事典、婦人画報社、(東京) 1988

訂正表

45頁	4行目	The Reserch ^x	The Research ^o
45頁	欄外	*服飾美術 ^x 学 ^x 科	*服飾美術 ^o 科
45頁	欄外	**服飾美術 ^x 科	**服飾美術 ^o 学 ^o 科
78頁	図1の説明	金属 ^x 飾り板	金製 ^o 飾り板
80頁	11行目	「倣 ^x 誓 ^x 有 ^x 的 ^x 毎」	「倣 ^o 誓 ^o 有 ^o 的 ^o 毎」
84頁	図8の出土地	(10)井辺八幡山 ^x 遺 ^x 跡	(10)井辺八幡山 ^o 古 ^o 墳
85頁	11行目	学 ^x 会 ^x の ^x 動 ^x 向	学 ^o 界 ^o の ^o 動 ^o 向
88頁	1行目	奇 ^x 好 ^x な ^x こ ^x と	奇 ^o 妙 ^o な ^o こ ^o と
88頁	19行目	最 ^x 上 ^x と ^x 仙 ^x 北 ^x の ^x 両 ^x 浪 ^x 人	最 ^o 上 ^o 、 ^o 仙 ^o 北 ^o 、 ^o 相 ^o 馬 ^o の ^o 三 ^o 浪 ^o 人
88頁	21行目	角 ^x 杯 ^x は ^x 使 ^x 用 ^x さ ^x れ	角 ^o 杯 ^o の ^o 使 ^o 用 ^o は ^o 記 ^o 述 ^o さ ^o れ